徳島新聞　２０２２年（令和４年）８月１０日　水曜日　（２１）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

生光学園女子 実力証明

全国3勝 強豪に名乗り

柔道

全国大会未勝利だった女子団体の生光学園が8強入りを果たし、強豪の一角に名乗りを上げた。3勝を挙げての5位入賞。だが、表彰台を目指していた選手は結果を受け入れられない様子。大将の牛方は「もう一つ勝っていたら3位。悔しさの方が大きい」と無念さをにじませた。

3月の全国選抜大会で惜敗した淑徳（東京）と準々決勝で対戦。雪辱して準決勝に進む青写真を描いていたが、思わぬ展開となった。先鋒（せんぽう）戦残り1分余りで、期待の木村が内股を掛けられ一本負け。悪い流れを断ち切れないまま、中堅齋藤も開始15秒に内股で投げられた。頼みの大将牛方は、攻めに出た残り20秒に内股を浴びて全敗した。

「技を警戒しすぎて得意の大外刈りを掛けられなかった」と牛方。木村も「相手が技を出すまで待ってしまい、自分から攻めていけなかった」と反省を口にした。

準々決勝は完敗に終わったとはいえ、3回戦で羽黒（山形）を2－1で破り、今季の勢いが本物であることを証明した。木村が「タイミングよく体が入った」と開始10秒で大内刈りを決め、牛方は力技で抑え込んで技ありの優勢勝ちを収めた。

福岡県出身の牛方と京都市出身の木村の2年生と、愛知県出身の1年生齋藤の3人は「日本一になる」との高い志を持って生光学園に入学し、寮生活を共に送りながら伊田監督の指導を受けて実力を付けてきた。

3年の佐藤主将は「団体戦では全国大会で一度も勝ったことがなかった。ベスト8という結果を残してくれた後輩を誇らしく思う」とねぎらった。

（須見千次郎）

女子団体準々決勝・生光学園対淑徳　果敢に投げ技を仕掛ける生光学園の木村（右）＝松山市の愛媛県武道館（立花善晴撮影）

柔道

（愛媛県武道館）

◇徳島県関係の成績

【女子】団体3回戦

生光学園 2－1 羽黒（山形）
○木村 大内刈り 朝井
齋藤 合わせ技 佐藤○
○牛方 優勢 森川

▽準々決勝

淑徳（東京） 3－0 生光学園
○徳田 内股 木村
○城代 内股 齋藤
○近松 内股 牛方

▽48㌔級1回戦

宮原青海（愛知・大成） 優勢 原田あおい（生光学園）

▽52㌔級2回戦

横山美月（千葉・八千代） 優勢 金山奈々美（生光学園）

▽57㌔級2回戦

竹中真琴（山梨・富士学苑） 反則勝ち 佐藤杏（生光学園）

◇決勝

▽団体

富士学苑（山梨） 0－0 比叡山（滋賀）

代表勝ち

富士学苑は3年ぶり2度目の優勝。

▽48㌔級

近藤美月（佐賀・佐賀商） 反則勝ち 城戸珊瑚（福岡・大牟田）

▽52㌔級

横田ひかり（長野・佐久長聖） 優勢 大久保藍（山梨・富士学苑）

▽57㌔級

新井心彩（埼玉・埼玉栄） 隅返し 白金未桜（長野・佐久長聖）